

教材名	ブランコ乗りとピエロ	教科書	日本文教出版（教出、学研、光文）	学年	6年
内容項目	相互理解、寛容	自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。			
内容項目のとらえ方 (子どもの実態を踏まえ)	教材をもとにグループで話しあい、いろいろな意見を出しあい、ストーリーを作り上げること自体が「相互理解」や「寛容」について実体験することになる。お話の世界にとどまらない授業をめざす。				
授業の展開					
子どもたちの活動			指導上の留意点		
1. 物語前半（プリント）を読む。			P138「何も答えない団員たちに、サムはいっそう腹を立て、いすをけりたおした。」以降、p139「都でのサーカスも最終日をむかえた。」の間は空欄にしたプリントを使う。		
2. 物語の最後（プリント）を読む。 空白の部分にどんなことがあったのか、ストーリーを考える。			班やグループで意見を出しあいながらまとめるように指示する。どんな展開で物語がハッピーエンドになっていくのか、工夫を凝らしてそれぞれのストーリーを作る。		
登場人物たちにどのような会話や行動をさせて、問題解決を図るかというところで子どもたちのいろいろな考えを出しあわせ、議論させたい。ユニークな展開も予想される。					
3. 作ったストーリーの発表方法を考える。 (可能な範囲で)			可能な範囲で、劇風に発表したり、漫画的に描いたり、発表の仕方にも工夫させる。		
4. 各班、グループのストーリーを発表する。			一班終わるごとに質疑応答の場面を設け、それぞれの考えを深く理解する機会とする。		
例) ・今までたまっていた本音を思い切り出しあい、言いあううちに「成功させたい」思いを確認できて仲よくなる。 ・みんなが一度に演技できるような出し物をみんなで考え、サムだけでなく同時にみんなが出られるようにした。 ・荒く息をしていたサム。実は病に冒されていて、もうブランコに乗れなくなることがみんなにわかり、みんながサムに協力しようと決める。 ・もめている時に団長がやって来て、そんなにもめるようじゃ失敗するので、仲良くしないとみんなくびだと言ったので、表面上仲良くした。					
5. さいごに 自分たちの班やグループの活動をふり返る。			オープンエンドで終わる。		